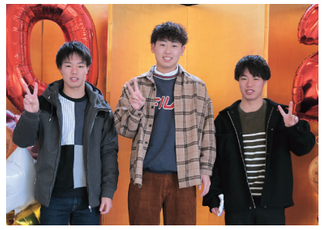
特集

二十歳、未来へ

晴れ舞台の延期を悲しむだけでなく、「今より成長した姿で会えるのが楽しみ」「今できることを頑張ろう」と話す新成人の皆さん。また笑顔で集まれるその日まで―。前を向く皆さんの「今」を取材しました。



新成人へ記念品を配布

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、令和3年成人式が開催延期に―。そこで1月10、11の2日間、式で贈呈予定だった記念品の配布を行いました。

記念品のデザインを手掛けたのは、成人式実行委員の三好詩乃さん（4ページで紹介）。「町の中心にあって、みんなが一度は遊んだことのある遊具。楽しい思い出がよみがえるようなカラフルな配色にした」と三好さんが話すように、エコバックには松前公園の遊具が、タオルハンカチには町花ひまわりが描かれています。

3密対策を行った配布会場には、フォトブースを設置。記念品を受け取った新成人の皆さんは、「かわいいね」と笑顔で話しながら、友人や家族と写真を撮って、20歳の思い出を残していました。

式典の開催に向けて準備をしてきた成人式実行委員会のメンバーは総勢16人。またみんなで集まれる日が来ることを信じて、一足先に16人の「今」を紹介します。

01 岡田校区 玉井 海優（みゆ）さん

広い視野を持って行動できる大人に

大学で法学部に所属する玉井さん。アルバイトに精を出す傍ら軟式野球部のマネージャーを務め、練習道具の準備や大会時のスコア付けなどで部員をサポートしています。

そんな玉井さんの恩師は、6年生のときに担任だった、酒井憲一先生。「当時小学校の中でも1番厳しい先生だったので、担任になったときはどうしようと思った」と笑いながら、「実際は一方的に怒らずに、自分たちで解決できるよう指導してくれる優しい先生。おかげで学校が楽しかったです」と振り返ります。

20歳を迎えた今、「こんなに元気に明るく育ったのもお父さんとお母さんのおかげ。小さいときからわがままな私を叱ってくれたことも、今となっては感謝の気持ちでいっぱいです」と話す玉井さん。自分のことを1番に考えてくれる家族に感謝しながら、今後は広い視野を持って行動できる大人を目指します。

02 岡田校区 吉岡 真優（まゆ）さん

周りから信頼される大人に

短期大学で英語を学んでいる吉岡さん。昨年の就職活動では、コロナ禍の影響で志望していた航空業界が採用中止に―。そんな厳しい環境下でも、「英語を使う仕事に就きたい」という夢を諦めず、子ども英会話教室への就職を決めました。

そんな吉岡さんの恩師は、中学校で所属していたバレーボール部の顧問、坂本博文先生。「指導は厳しかったけど、私たちの成長を考えてくれる、とても良い先生でした」と振り返ります。

20歳を迎える今、「どんなときでも1番の味方でいてくれてありがとう」と家族への感謝を忘れない吉岡さん。「周りから信頼される大人になりたい」と目を輝かせる吉岡さんは、春から社会人としての新たなスタートを切ります。

03 岡田校区 木山 莉花（りか）さん

魅力的な大人の女性に

大学で法学部に所属する木山さん。英語のゼミでは、旅行で親交を深めるなど、「メンバーに恵まれて楽しい」と笑います。コロナ禍の影響で、ゼミ旅行はもちろん対面の講義もままならなかった昨年は、人と関わることの大切さを実感しました。

中学校でバレーボール部に所属していた木山さんの恩師は、坂本博文先生。「人間関係や生活面など、私たちを正しい方向へ導いてくれた。いつも真剣に向きってくれてうれしかったです」と振り返ります。

20歳を迎える今、「普段は恥ずかしくて言葉にできないけど、家族には1番感謝しています」と話す木山さん。叱ってくれる人がいるありがたさをかみしめながら、魅力的な大人の女性を目指して、自分の長所を伸ばしていきます。

恩師からのメッセージ

成人 おめでとう

成人式実行委員の皆さんの思い出に残る先生に、お話を聞きました。

今は松前小学校で、人生20回目の6年生担任！

2年間担任を持ち上がった学年で、あいさつ運動を地域に広める土台を作った子たち。今回は残念でしたが、コロナ終息後に会えるのを楽しみにしています。人生思い通りにいかないことが多いけれど、腐ることなく踏み留まって自分なりに頑張っていってほしいです。

酒井　憲一 先生

04 北伊予校区 松原杏（あんず）さん

周りの人を幸せにできる存在に

大学で国際観光学科に所属する松原さん。コロナ禍で増えたお家時間を使い、料理のレパートリーを増やせるよう自炊を頑張っています。

そんな松原さんの恩師は、中学校の校長先生だった、柿本久先生。「生徒想いの先生で、朝礼の言葉が毎回楽しみだった」と振り返る松原さんは、当時感銘を受けたという、「『もう』無理だ、『もう』勝ったではなく、どんなときも『まだまだ』取り返せる、『まだまだ』油断できないぞと思うことが大切」という先生の言葉を今でも胸に刻んでいます。

20歳を迎えた今、「普段は気付かないけど、絶え間なく愛情を注いで大切に育ててもらった。好奇心が強い私が何にでも挑戦できたのは、安心感を与えてくれる家族のおかげです」と感謝の気持ちを話す松原さん。今後は、いるだけで人を笑顔に、幸せにできるような存在を目指します。

05 北伊予校区 三好詩乃（うたの）さん

自分を持っていて気遣いのできる大人に

大学で生活造形学科に所属する三好さん。着物、着ぐるみや啓発ポスターをデザインするなど経験を積みながら、配色や素材を扱うカラーデザイナーを目指して頑張っています。

そんな三好さんの恩師は、テニス部の顧問だった大西俊行先生。「パフォーマンスだけでなく、人として成長できるようなアドバイスをもらった」と振り返り、今でも親交のある先生のことを、「出会ってよかった先生第1位です」とほほ笑みます。

20歳を迎えた今、家族に対し、「20年間何不自由なく育ててもらって感謝しています。たくさん幸せをもらった分、早く自分でお金を稼いで100倍くらい幸せにしてあげたい」と瞳を潤ませる三好さん。「自分のスタイルをしっかり持って、性格や価値観もブレずにいたい」と力強く話す三好さんは、視野が広くて気遣いのできる女性を目指します。

06 北伊予校区 松本莉奈（りな）さん

心（しん）の強い、信頼される大人に

大学で経済学部に所属する松本さん。学内のアルバイトで、新入生の物件探し、教材提供や講座の運営を行うなど、新入生の気持ちに寄り添った支援を心掛けています。

そんな松本さんの恩師は、小学校3年生のときに担任だった、向井由奈先生。「明るくて面白い先生。いつもクラスを楽しませてくれて、周りからクールだと言われていた私を変えてくれてた」と振り返ります。

20歳を迎えた今、家族に対し、「健康な体に産んで育ててくれたことに感謝しています。落ち込んだときは、弟2人のにぎやかさにも助けられた」と笑う松本さん。「弟たちに示しがつくような生き方をしたい」と話す松本さんは、アルバイトでも自覚を持って後輩を育てながら、周りから信頼される大人を目指します。

07 北伊予校区 加藤諒（りょう）さん

何事にも情熱を持って取り組める大人に

大学で社会学科に所属する加藤さん。資格取得に力を入れており、「卒業までに英語検定準1級と福祉住環境コーディネーター2級を取得したい」と意気込んでいます。

そんな加藤さんの恩師は、中学校1年生のときに担任だった、中塚秀樹先生。「とても熱い先生。自分から準備を手伝う程、先生の授業が楽しみでした」と振り返ります。

20歳を迎えた今、「20年分の感謝を込めて、これからは恩返しをしていきたい。実家暮らしなので、まだお世話になりつつ、適度に自立できるように頑張ります」とほほ笑む加藤さん。「中塚先生のように情熱のある大人になりたい」と目を輝かせる加藤さんは、「将来海外に渡って現地の人に日本の良さを伝えたい」という夢に向かって、挑戦を続けます。

恩師からのメッセージ

双海中学校を最後に 昨年度定年退職！

追い込まれても最後まで決して諦めない、熱いパワーを感じる学年でした。

コロナ禍を乗り越え発展するには君たち世代の協力、活力、エネルギーが必要。社会を明るくできるよう、それぞれの立場で自覚を持って今まで培ってきたパワーを発揮してほしいです。

大西　俊行 先生

砥部中学校を最後に 昨年度定年退職！

部活動や学校行事に一生懸命取り組む学年で、互いを尊重しながら正し合える、礼儀正しい子たちでした。

20歳は人生の大事な節目。周囲の人への感謝の気持ちを形で表しながら、理想とする自分をしっかり描いてアグレッシブに目指してください。

柿本　久 先生

今は伊予小学校で、音楽専科を担当！

莉奈ちゃんは、しっかり者で頑張り屋のクラスのお姉さん的存在でした。

これから不透明な世の中に飛び込んでいかなければならない皆さんには、自分の軸をしっかり持って、人のせいにしたり非難したりせず、自ら考え自ら動ける大人になってほしいです。

向井　由奈 先生

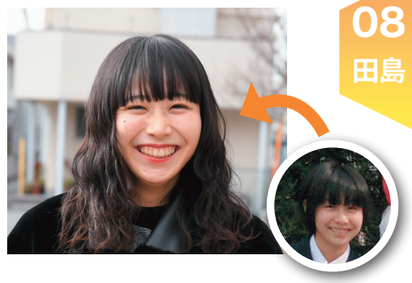
今も北伊予中学校で、3年生の学年主任！

1年生から野球を始めて最後にはスタメンを勝ち取った加藤くんの話は、今でもよく生徒たちにしています。

コロナに負けずに頑張る君たちが、松前町を切り開いてくれることを楽しみにしています。生まれ育った地域を大事にできる大人になってください。

中塚　秀樹 先生

08 松前校区 田島 海彩（みさ）さん



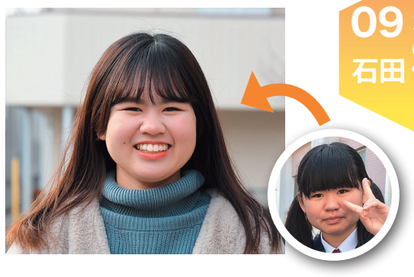
周りの人を元気付け、笑顔にできる存在に

大学で、看護師と保健師の資格取得を目指して勉強中の田島さん。「言葉だけでなく患者さんの表情や体の動きから感情を読み取るのが難しい」と話すように、実習を通じて患者さんに信頼される対応力が身に付けられるよう努力しています。

そんな田島さんの恩師は、中学校の鳥山譲二先生。「3年生で応援団長を任されたとき、私のまとめ方を見て、『必ず強みになるからその調子で頑張れ』とほめてくれて、自信につながった」と振り返ります。

20歳を迎えた今、「子どもの頃両親に怒られて不満に思ったことも、今になって自分のためだったと分かる。尊敬できる両親、姉や弟から毎日刺激をもらっています」と感謝する田島さん。「みんなを元気付けられる存在でありたい」とほほ笑むように、周りの人への感謝や謙虚さを忘れず、魅力的な大人を目指します。

09 松前校区 石田 優華（ゆうか）さん



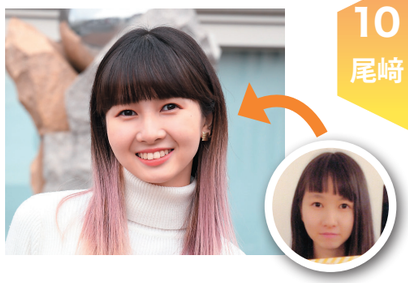
状況に応じて、できることを探せる大人に

大学で教育学部に所属する石田さんは、教員免許の取得以外にもリーダーシップを学ぶプロジェクトに参加し、海外の学生とのオンラインで自国をプレゼンテーションし合うなど、国際感覚を身に付けながら、自主性と積極性を磨いています。

そんな石田さんの恩師は、小学校で2年間担任だった久保一先生。「何かやりたくても、自分から言えなかった私を後押ししてくれた先生。言葉一つで子どもに意欲を与えられる『教師』に憧れたのも、久保先生がきっかけです」と振り返ります。

20歳を迎えた今、「私のやりたいことを理解し、挑戦させてくれる家族にはいつも助けられています」と感謝する石田さん。「状況に不満を言うのではなく、常に自分のできることを探せる大人になりたい」と話すように、今後も挑戦を続けます。

10 松前校区 尾﨑 舞美（まみ）さん



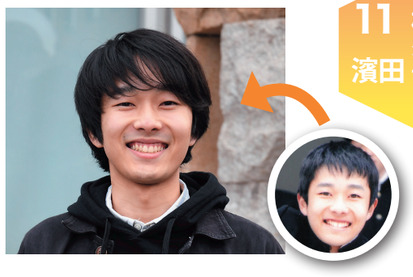
人から頼られ、自分も甘えられる大人に

瀬戸内エリアを本拠地とするアイドルグループの1期生として活動していた尾﨑さん。現在は、4人組の音楽グループ、「ビックフッターズ」で振り付けを担当しています。

そんな尾﨑さんの恩師は、中学校の学年主任だった、田丸由香先生。「明るくて気さくな学年のムードメーカー的存在。友人関係で悩んだときも真っ先に相談して、先生に助けられました」と振り返ります。

20歳を迎えた今、「心身ともに元気で成人を迎えられたのは、家族の支えがあってこそ。何歳になっても感謝の気持ちを忘れずにいたいです」と話す尾﨑さん。「大人な部分と子どもの部分を両方兼ね備えた人間になりたい」と笑う尾﨑さんは、周りの人から頼られ、また自分も素直に甘えられるような大人を目指します。

11 松前校区 濱田 岳志（たけし）さん



子ども心を忘れない大人に

大学でコンピューターなどの情報工学を専攻している濱田さん。将来エンジニアになることを目標に、プログラミングや電気・電子回路について学んでいます。成人式実行委員会では、「いまさきほこれまさきっ子」というテーマ案を出し、見事採用されました。

そんな濱田さんの恩師は、中学校のときの担任であり所属していた野球部の副顧問でもあった、水口憲和先生。「ストイックな先生で、部活のときは低いノックを打って鍛えてくれた」と笑って振り返ります。

20歳を迎えた今、とても仲が良いという家族に対し、「大学まで進学させてくれて感謝している」と話す濱田さん。今後も無邪気な子ども心を忘れず、「自慢の息子になれるよう精進したい」と意気込んでいます。

恩師からのメッセージ

今も松前中学校で、3年生の学年主任！

部活動などで見た高い運動能力と運動会の応援合戦で見たリーダーの全体を引っ張る力に驚かされた学年でした。気持ちの良い「あいさつ」ができる人は社会に出ても信頼されます。厳しい世の中ですが、輝く未来に向けてどんどんチャレンジしてください。

鳥山　譲二 先生

今は岡田小学校の教頭先生！

素直で子どもらしく、かわいい子ばかりの楽しい学年でした。3年連続で受け持ったので、全員の顔と名前を覚えています。「意志あるところに道はできる」―。不安なことも多いと思いますが、目標を定め、それに向けてしっかり歩んでほしいです。

久保　一 先生

今は砥部中学校で、1年生の学級担任！

人懐っこくてかわいい子ばかりの活気がある学年。3年間みんなの学年主任でいられて毎日がとても楽しかったです。周りの人に感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切にして、たくさんのことに挑戦してください。松前中の思い出も、いつまでも忘れずに。

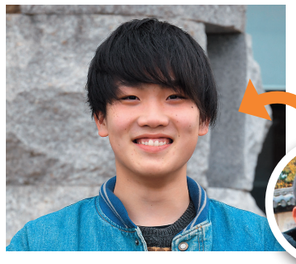
田丸　由香 先生

今は余土中学校で、1年生の学級担任！

3年間担任で持ち上がった学年で、いろんなキャラクターを持つ子がいたのでみんなと話すのが楽しかったことをよく覚えています。コロナ禍で今まで通りにいかないことだらけですが、自分の夢をつかめるように、今できる精いっぱいを頑張ってほしいです。

水口　憲和 先生

12 松前校区 藤岡 奨也（しょうや）さん



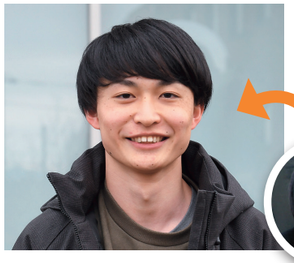
常識があって、優しい大人に

配管設備を扱う工場で働いている藤岡さん。自分が仕事を覚えるのはもちろんのこと、現在は後輩の育成にも力を入れています。

「学校の休み時間に友達とじゃれ合うのが楽しかった」と話す藤岡さんの恩師は、中学校の学年主任、田丸由香先生。「とても明るくて楽しい先生。担任じゃないけど毎日話していました」と振り返ります。

20歳を迎える今、「うちは母子家庭で、男3人兄弟。大変だったと思うけど嫌な顔一つ見せることなく3人を育ててくれて、感謝の気持ちでいっぱいです」と話す藤岡さん。常識があって優しい大人になることを目指して、「兄弟3人とも社会人なので、これからは恩返しをしながら母を幸せにしたい」と意気込んでいます。

13 松前校区 宮﨑 翔（しょう）さん



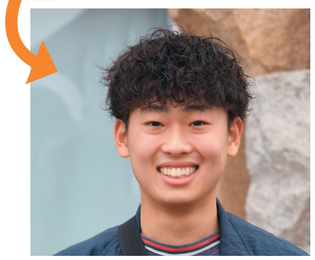
上司に信頼してもらえる大人に

中学生のときはバスケットボール部に所属していた宮﨑さん。現在は化学製品の工場で、スマートフォンのカメラに使うレンズなどを製造しています。

社会人2年目の宮﨑さんは、「仕事を覚えるのが大変。まだ全然できなくて迷惑を掛けています」と話しますが、教わったことは必ずメモを取って見直すなど、「1日も早く上司に信頼してもらえるようになりたい」と日々努力しています。

20歳を迎えた今、「いつも家のことをしてくれてありがとう」と家族への感謝の気持ちを話す宮﨑さん。「社会人になってお金を稼ぐようになったので、これから少しずつ親孝行をしていきたい」と意気込んでいます。

14 松前校区 萬奥 凌（りょう）さん



大人として成長した姿を見せたい

中学生のときは野球部に所属していた萬奥さん。現在は松前町役場の上下水道課で技師として働いています。高等学校で専攻していた土木とは異なる分野に、「専門用語に慣れずに苦労している」と話しますが、臨機応変な対応が求められる現場業務で経験を積みながら、その専門性を磨いています。

20歳を迎える今、「うちは母子家庭で、少しは我慢することもあったけど、しんどい姿を見せないように好きなことをやらせてくれた母に感謝しています。今まで育ててくれてありがとう」と話す萬奥さん。「一緒にお酒が飲めるようになったら、楽しみも増えるのかな」と笑う萬奥さんは、大人として社会人として成長した姿を見せられるよう、これからも努力を続けていきます。

15 松前校区 村上 秀斗（しゅうと）さん

自立したかっこいい大人に

中学生のときはバスケットボール部に所属していた村上さん。現在は糸製造の工場に勤務しながら、休みの日には社会人チームの練習に参加し、大好きなバスケットボールを続けています。

成人式の延期にショックを受けたという村上さんですが、「コロナ禍の影響で帰省できない人も多い。落ち着いた後でみんなと会えたらいいな」と前向きに捉えています。

20歳を迎えた今、「うちは母子家庭なので、とても大変だったと思う。とにかく今まで育ててくれたことに感謝しています」と話す村上さん。「20歳になったので、今まで教わったことを忘れずに、正しい道を進んでいきたい」と意気込む村上さんは、自立したかっこいい大人を目指します。

16 松前校区 坂上 航太（こうた）さん

自他共に認める成長を

大学では経済学部に所属する坂上さん。最近新しくできた飲食店でアルバイトを始め、店舗に慣れている人がいない分、仕事を覚えながらスムーズに接客できるよう頑張っています。

友達の誘いで実行委員になったという坂上さんは、「今回集まれなかった分、次会えるのがもっと楽しみになった」と成人式の延期を次へのモチベーションにつなげています。

20歳を迎えた今、「家族には1番お世話になったし今までたくさん迷惑もかけてきた。その分とても感謝している」と話す坂上さん。「これから少しずつでも恩返しをしていけたら―」とほほ笑むように、自分でも周りからも成長したなと思えるものを一つでも多く身に付けられるよう、努力していきます。

こんな時代だからこそ
「今」できることには
大きな意味があるのかもしれません。
前を向いて、輝ける未来へ―。

20歳の写真を投稿しよう

ハッシュタグ「#masaki2021seijin」をつけて、前撮り写真や友人と撮った写真をインスタグラムに投稿してね。懐かしい友達を探そう！

フォローしてね♪

@masakicho_official